

第2回技術委員会（方法書2回目審議）での意見等及び事業者の見解

資料2

No.	区分	委員名	意見要旨	事業者の説明、見解要旨等
1	1.7 事業の内容	花里	<p>・地震発生時に炉が停止しなければ、どういった問題が起きるといった想定はしているか。</p> <p>炉の温度が高い状態ということで、炉が割れることにより有害物質が外に飛んだり、周辺での火災等が想定されると思うがいかがか。</p>	<p>・焼却施設の稼働において、災害時には外部電源が遮断されることが想定されるため、二次災害を抑えるという観点から新たなごみを投入せずに埋火状態とし、焼却を早く安全に停めるための措置をとります。</p> <p><b>【事後回答】</b></p> <p>・計画施設は、地震の発生を感知し、炉が安全に停止するようなシステムを考えておりますが、稼働にあたっては、具体的なリスクを想定して、事故対応マニュアルや危機管理マニュアルを作成するなど危機管理の体制を整えてまいります。</p>
2	1.7 事業の内容	花里	<p>・資料3 No.6 緑化については広大な地域を含めて考えるべきという住民意見に対して、もう少し親切にお答えしてもよいのでは。緑化面積についての意見であるので、面積についての考えを見解とした方がよいと思う。</p> <p><b>【亀山委員長】</b></p> <p>事業地外については事業者としては答えようがないためこういった回答になったのではないか。</p> <p>ただ、意見の内容に対してもっと忠実に答えた方がよいということかと思う。</p>	<p><b>【事後回答】</b></p> <p>・計画施設の緑化につきましては、周辺との調和や景観等への配慮という視点で行いたいと考えております。</p> <p>なお、現時点において緑化面積は定まっておりませんが、「千曲市緑の基本計画」に基づき、公共施設に求められる緑化を行ってまいります。</p>

No.	区分	委員名	意見要旨	事業者の説明、見解要旨等
3	1.7 事業の内容	塩田	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料3 No17 に示されている放射能物質に係る質問は、具体的な数値を求めるものであるが、それに対して放射性物質の検出はわずかという回答となっている。わずかという言葉ではなく、実測データがあれば示していただいた方が良くと思う。</li> </ul>	<p><b>【事後回答】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>葛尾組合では、主灰（焼却灰）に含まれる放射性物質の定期的な測定を行っており、今年5月の値ではセシウム137が18Bq/kg、セシウム134が12Bq/kgで、いずれも国の基準を下回る問題のない数値となっております。</li> <li>この値から、焼却対象となる可燃ごみの収集区域がほぼ同じ計画施設から排出される熔融スラグにつきましても、有効利用には問題ないものと考えております。</li> </ul>
4	2.2 社会的状況	花里	<ul style="list-style-type: none"> <li>昭和34年8月に発生した災害レベルでは、堤防を越えて施設に影響を与えうるのか。</li> <li>洪水については過去20年間のデータを用いているが、近年ゲリラ豪雨等が頻出しているため、最近のデータを軽んじることのないよう対応をお願いしたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>洪水につきましては、過去20年間のデータを用いており、確認した範囲で堤防を超えた事例はございませんでしたが、地域住民からの聞き取り等も行い、過去においてどのくらいの水が出たか検証するとともに、最新のデータについても参照し、慎重に対応したいと考えております。</li> </ul>
5	2.2 社会的状況	富樫	<ul style="list-style-type: none"> <li>洪水については、過去にどのくらいの水が出たかといったことなど、長い目で洪水のリスクも見ていただきたいがいかがか。</li> </ul>	
6	2.3 自然的状況	塩田	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然状況に係る一部の住民意見に対して、当事者ではないため分からないといった回答があるが、不明だが当事者に確認するような努力がみられる回答にした方が良いのでは。</li> </ul>	<p><b>【事後回答】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>当該調査等の実施主体に内容を確認いたします。</li> </ul>
7	2.3 自然的状況	富樫	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料3 No.2 及びNo.35 に記載されている活断層について、既存文献調査では「過去から知られている活断層」がないことが確認できるのみであり、その場に存在しないことを証明するものではない。未知の活断層が出てくる可能性もあるので、知られている活断層は無いと答えられた方が正確だと思う。</li> </ul>	<p><b>【事後回答】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ご意見を踏まえ、既存文献に示された活断層を「確認されている活断層」と捉えて今後の表現に留意いたします。</li> </ul>

No.	区分	委員名	意見要旨	事業者の説明、見解要旨等
8	2.3 自然的状況	梅崎	<p>・資料3 No.2 及び No.35 に示された地震に関する質問について、地震発生確率はほぼ0とされているが、万が一発生した際の対処方法も併せて記載すればよいと思う。</p>	<p><b>【事後回答】</b></p> <p>・この資料のNo.1 の見解と同じでございます。</p>
9	2.3 自然的状況	大窪	<p>・資料3 No2 の見解に記載がある、文部科学省の地震調査研究推進本部の評価については、東日本大震災以後のものか。評価の年代が分かれば記載いただきたい。</p> <p>地震の発生予測という観点では100年では短いため、200年という数値で確認を行い、追加して記載してはどうか。</p> <p><b>【亀山委員長】</b> 焼却施設の稼働は100年以内といった記載をしていただければ良いと思う。</p>	<p><b>【事後回答】</b></p> <p>・地震発生確率は、平成13年11月14日文部科学省地震調査研究推進本部地震調査委員会による、「信濃川断層帯（長野盆地西縁断層帯）の評価（平成17年1月12日修正）」で示された数値でございます。</p> <p>また、ごみ焼却施設の稼働年数は、最も長いもので40年程度であることから、上記資料の「今後100年以内の発生確率」を参照しました。</p>
10	3.2.1 大気質	小澤	<p>・施設の存在・供用時におけるダイオキシン類の短期的評価は行われないこととなっているが、状況確認により周辺に発生源等があった場合は、短期的評価が必要になるのではないか。</p>	<p>・ご意見を踏まえ、短期評価を行います。</p>
11	3.2.2 騒音 3.2.3 振動	塩田	<p>・騒音、振動については各季節の平日及び休日に測定を実施するということだが、具体的に何月ごろを想定しているのか。</p>	<p>・具体的な日程につきましては、他項目の調査との兼ね合いを考慮して設定するため、現段階ではお示しできません。</p>

No.	区分	委員名	意見要旨	事業者の説明、見解要旨等
12	3.2.1 大気質 3.2.2 騒音 3.2.3 振動	塩田	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大気質については、排気ガスや風向等の調査結果により、地域においてどの月に影響が大きいかが大体予測できるので、そういったデータを根拠に測定を実施してはどうか。また騒音・振動については交通量や風の強さ等により想定できるはずである。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご意見を踏まえたうえで、長野県環境影響評価技術指針に基づいて設定をいたします。</li> </ul>
13	3.2.7 水象	佐藤	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水象の影響範囲を半径 500m と設定した理由は。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画施設は、A 焼却施設と同様に河川の近くにあり、掘削深度も同程度であることから、A 焼却施設を参考に、水象の影響範囲を概ね半径 500m と設定しました。</li> </ul>
14	3.2.7 水象	富樫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最大 10m 程度の掘削を想定すると、地下水位との関係から周辺地下水に影響が出る可能性が十分に考えられるため、既存井戸を活用しつつ、3 点以上の浅井戸において、豊水期、渇水期をカバーできるような一斉観測調査を検討いただきたい。</li> </ul>	<p><b>【事後回答】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地下水につきましては、対象事業実施区域及び周辺 500m 以内の利用状況を十分に確認し、3 点以上の調査地点等を適切に選定して月 1 回の通年観測を行い、その影響を予測評価いたします。</li> </ul>
15	3.2.11 動物	中村 (雅)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動物調査の手法として任意調査が選定されているが、任意調査とは具体的にはどのタイミング、どの観点で調査を実施するのか。また地域の方から貴重な生物等の情報が入ると思うが、拾うことはできないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現地調査につきましては、文献調査に加え、聞き取り等で得られた情報をもとに実施いたします。</li> <li>また、他項目の調査の際に確認された動物についても併せて観察いたします。</li> </ul>